



今こそ、

動物園の中に保育園を作ませんか？

「命の教育」が大切だと思う教育者の皆様へ



話し手：獣医師・到津の森公園園長 岩野俊郎氏
取材：株式会社 TONZAKO デザイン 代表取締役社長 松崎淳



新しい動物園の世界へ

ようこそ(^^)

1. 目次

1. はじめに	5
2. 1.動物園を哲学しよう	6
1.1 ケン、そろそろ帰ろうや	6
1.2 ナオは、自ら手を離れた	7
1.3 日本で初めてのキリンへの麻酔	8
1.4 設計で良かったところ	9
1.5 獣舎の床を土にするといったら反対された（笑	10
1.6 ズーラシアの小型版は嫌だ	11
1.7 動物の哲学	11
3. 2.動物園で育ったチンパンジーは交尾ができない	12
2.1 動物園がなければ、動物園の問題はない	12
2.2 チンパンジーもゾウも群れで生きている	13
2.3 シファカの横っ飛びと動物園の教育	14
2.4 「展示」と「飼育員」	15
4. 3.「倫理」という考え方	16
3.1 今どきのIoTを利用して	16

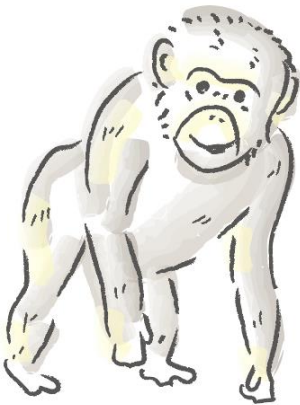
3.2	自然の入り口としての動物園	16
3.3	いい動物園とは	17
3.4	誰しも、都合の悪いことは隠す	18
3.5	これからの動物園のあり方	19
5.	4.エシカルな動物園へ	20
4.1	動物園の機能と起源	20
4.2	動物園とサイエンス	21
4.3	動物園の経営	21
4.4	動物園の6次産業化	22
4.5	動物園とSDGs	23
4.6	ゾウもキリンもない動物園	25
4.7	花鳥風月な動物園があったら	26
4.8	地域の未来をつくる動物園	26
6.	5.岩野俊郎という人間	27

はじめに

到津の森公園がオープンしたばかりの時に事件は起りました。チンパンジーが脱走したのです。その時、岩野園長と僕は、走って追いかけてました。

かなり走ったところで、彼(ケン)も疲れたのか止まりました。そこで、なんと岩野氏は「ジュースを買ってこい！」と僕に言ったのです。僕は意味も分からず、とりあえず、缶ジュースと缶珈琲を買って戻りました。

目の前の岩野氏は、「こいつは小さい頃から知っているから、手を繋いで帰るんだ！」と真顔で言うのです。たくさんのメディアが押し寄せ、頭上にはヘリコプターが飛んでいます。チンパンジーと言っても、体格は人間と変わりません。いつもは檻の中にいる彼を、目の前にするととても大きく感じます。



岩野氏は手渡しでジュースを渡しました。なんと、それを彼は飲んだのです。そして、岩野氏は語りかけます「遠くまできたなあ。疲れただろう？そろそろ帰ろうやー」。ヘリコプターに乗っている人たちは、上からこの光景をどう見ていたのでしょうか？

残念ながら、彼はジュースを飲み切った後、僕たちを置いて歩いていきました。そのチンパンジーは、その日のうちに無事に捕獲できました。

しかしその後、別のメスのチンパンジーが園内で新しく建てられた高い塔から落ちて死んでしまいました。不思議なことに、落ちた後、自らふたたび塔に登り、最上部で動かなくなったのです。その傍ら、ケンはずーっと雪が降るのに一晩中、ずーっと寄り添っていました。



なぜ、彼は逃げたのか？なぜ、彼女は落ちた後、再度塔に上ったのか？なぜ、彼は彼女のそばを離れなかったのか？その後、自分の手が動物の血で染まったこともあり、「命」を触っているんだという畏敬の念で身体が震えた瞬間もありました。

「到津の森公園」の設計監理を担当することになった当時の僕は、28歳。社会人として駆け出しでした。同時に人間としても、とても未熟で会社的にもお荷物だったに違いありません。そんな時期に岩野氏に出会いました。岩野氏からは動物園や動物のことだけでなく、人として、動物として多くのことを学びました。



会ってから、約20年。今回の取材の目的は、岩野氏が考える「理想の動物園」をより多くの人に知ってもらうことでした。しかし、話の内容が予想以上に濃く、「命」と向き合うことの多かった2020年、まさにタイムリーだと感じ、小冊子というカタチにまとめることにしました。

「ノンイベント、ノンズーなんだよ」という岩野氏の話聞いてください。そして、是非、ファンである北九州市の市民の皆さんと共に、到津の森公園に保育園をつくって欲しいのです。高齢者施設も一緒に建てたいというから、岩野氏はきっとそこで子どもたちと日常を過ごしたいのでしょう。そうして、日ごろから応援いただいている市民や企業の皆さん、行政や教育者の皆さんと共に、世界的に例を見ない「動物園を活用した“教育と福祉の地域エコシステム”の構築」に残りの人生をかけるに違いありません。

1. 動物園を哲学しよう

1.1 ケン、そろそろ帰ろうや

こんにちは、TONZAKO デザインの松崎と申します。2000 年ごろ、到津の森公園の動物園の基本設計がスタートするころ、動物園の専門家としてお話を聞きに行った時が岩野園長との出会いでした。その後、工事がスタートし、一緒にいることが増えてきました。そんな頃の話からスタートします。

——チンパンジーのところで、大変なことが起こりましたよね？

えー、ありましたね。あれは、辛かったですね。

——チンパンジーをパドックに出した最初の日に、チンパンジーが電柵を握って、獣舎の壁面を登って逃げていきましたよね？

はい。逃げていきましたね。一緒に追いかけたよね。大きな道路を渡って、ラブホテルの駐車場を横切って、やっと公園のところで止まった。

——そう、その時、僕にジュースを買ってこいて言いましたよね？

いや、珈琲です。

——そうでしたっけ。僕ね、わけも分からずネクターのようなジュースと珈琲を買っていったんですよ。その時に、園長は「こいつは小さい頃から知っているから、手を繋いで帰るんだ！」と言ってましたよね？僕は、ほんとにできるのかなあと(笑

分かります？檻もない公園で、目の前におとなのチンパンジーがいるんですよ。60 キロ強ぐらいあって、僕と同じくらいの体格がある。そのチンパンジーに手渡しで珈琲を渡すんです。その彼に

「ケン、いい加減ここまで遠くまで来たからそろそろ帰ろうや」

って言ったんです。でも、こいつは全く聞く耳持ちませんでしたね(笑。その時僕は、こいつは意思疎通ができない動物だと思いましたね。

そして、ケンはずをつなぐこともなく、珈琲を飲んだまま空き缶をポンと投げて、そのままスタスタとまた逃げていきましたね。僕はその後姿を見るのが、とても寂しかった。

その頃には、野次馬やテレビの中継も入っていてね。そのテレビ中継を見た、旭川の私の友人だった小菅(旭動物園の元園長)が、「岩野、テレビのお前の背中中、寂しいのが良く分かったよ」と言っていました。



——空にはヘリコプターが5台も6台も、バリバリ、バリバリ飛んでいましたよね。

飛んでたねー。そして、住宅地の近くのキャンプ場が上がって行って、彼も疲れたのかな。坂も上がれなくなってたね(笑。その状況で、うちの獣医たちに「麻醉銃を撃て！」といったんだけど、当たらなくてね。まー、びっくりだったね。ここから打って当たらなければ、どこから打ったら当たるんだと思っていましたよ。

そして、たまたま、ケンがそっちの方へ向かって行って、たまたま麻醉が入っていた銃を持っていた奴が、危ないと思って打ったものが当たったんですよ。

それでね、また慌てさせると麻醉が聞かないので、みんなに「落ち着け」と言って、落ち着かせて、しばらくしたら効くからと。そしたら効いてきて、毛布に包んでケージに入れて連れて帰りましたね。

実は、逃げた当初からチンパンジーを飼ってた飼育員を呼んでただけで、間に合わなくてね。麻醉が効いてから来たんだよ。彼なら、手を繋いで帰ったかもしれないね。

今だったら、すごくたたかれたと思うんだけど、あの時は警察や報道陣からも「園長、捕まって良かったですね」と言ってくれたんだ。温かいいい時代だったね～。

——園長、インタビューを受けたのを覚えていますか？

覚えてないなあ。

——チンパンジーって、特定動物で人間を簡単に殺してしまうんで、とても危険な動物なんですよ。その動物が逃げていることに対して、全部自分の責任だって言われたんです。本当は僕もすごく責任を感じていたんですが、それを聞いて、「スゴイなあ、この人に一生ついていけないといけいな」って心が決まってしまいました(笑)。

いやー、簡単に決まるのね！そして、その人、なかなかいい人やね(笑)

——そうなんですよね。時々ね(笑)

時々ね(笑)。それにしても、あの日は長い半日でしたね。

1.2 ナオは、自ら手を離した

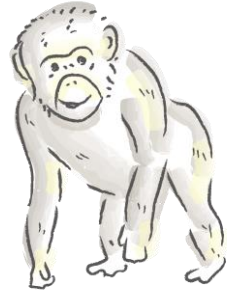
——メスのチンパンジーが、ロープから手を放して落下した事件もありましたよね。

違うよ。ロープから手を離したんじゃないよ。ナオは、新しく建てられた15Mの塔のステージに手をかけていて、その状態のまま自分で手を離したんだよ、あの子は、あんな高いところ知らないもの。

今までは高いところからでもポンと飛び降りていたという意識しかないのよ。チンパンジーは登れても、自分が怪我をしない範囲なんだよ。だから、反対

だったんだ、いきなり高い塔を建てるのは。飼育下の動物にとって怪我をする可能性があると思っていたもん。

あの時も、自分で、飛び降りたんじゃないかという感じで手を離れたよね。多分、いつもやっているようにしたんだと思うよ。でも、結局高さがありすぎて、真っ逆さまに転落しちゃったでしょ？そして、また上まで上がって、死んだんだよ。



——あの時、ケンがそばから離れなくなりましたよね

そう。最初に逃げちゃったやつね。

寒い日だったよね。結局、夜中一晩、あそこにおったんやもん。ナオは死んでるみたいだから、ケンを救出しなければいけないとなったね。そこで、今度は珈琲牛乳に鎮静剤を入れて飲ませて、クレーン車で上から麻酔を打とうということで、クレーン車を伸ばして、ゴンドラの中から麻酔をかけたの。

——クレーン車の前は、釣り竿でやってましたよね？

あれは、あそこから落ちたら困るので、まず麻酔の前にケンに鎮静剤を飲ませて、鎮静剤が効いてきたら、麻酔を打とうという話になったんだよ。

——その時に、誰かが中に入らなければいけないとなって、園長が「松崎お前行け」って言われて。ケンが落ちたらあかんから、ネット張れって言われましたよね？

そうだったかあ(笑。結局は、うちの飼育係長が行ったね。15Mの塔の上のフラットになっているステージのところは手すりも何もないから、網をかけて、クレーンで吊るしたゴンドラから麻酔をかけたんだよね。

——大変でしたよね。

うん、大変だったね。悲しい出来事だったけど、いい経験になったね。

1.3 日本で初めてのキリンへの麻酔

——その後、古い獣舎の中で、幼いメスのキリンが怪我をしましたよね。

そう、古い獣舎の中で踏まれたんだよね。麻酔をかけて治療をしたよね。あれ実は、麻酔をかけるのが大変だったんだよ。それまで、日本でキリンに麻酔をかけたことが無かったんだよ。キリンの麻酔のことを、あちこち聞いてみたけど、なかったんだ。世界にも例がなかったんだ。でも、大きな300~400キロのエルクに麻酔をかけたものがあったんだ。それと同じやつなら使えるんじゃないかと、その薬を作った会社に聞いたら、使えるかもしれないということで使ったんだよ。



麻酔ってね、起こす時が一番難しいんだ。スポツと起きないとバタバタ暴れちゃって、首の骨を折ってはいけないしね。いろいろ考えて、やってみたらバチッと効いた。良かったよ！

その時はうまくいったんだけど、キリンに着けたプレートが曲がってね、最終的にはそれがもとで、死んでしまったんだ。キリンの手術をしたのも、うちが初めてだったんだよ。

——そうだったんですか！？あの時、古い獣舎で倒れて、新しい獣舎に連れて行ってやろうといったの覚えていますか？

そうだったかなあ。

——あの時ね、園長に運ぶもの持って来いって言われて。キリンの下にポリエステルか何かのシートを引いて、みんなで新しい獣舎まで運んだんですよ。その時にね、キリンの温かさや血が自分の手について、それが、なんかこう「生きている感」がすごくあって、未だに手の中に残っていますね。

あいつ、連れて行ったかなあ

——あの時、園長と一緒に、骨折を固定するための器具を北九州の医療器具を売っている会社に取りにいきました。

あー、行ったね！しばらくの間は生きていたけれど、すぐに死んでしまったね。一ヶ月ぐらいしかもたなかったなあ。

——あの時は、命を直接触っている感じがいっぱいありましたよね？

僕なんかは、常にそんなことをやっているからね。

印象深いのは、やっぱり大きい動物なんだよね。それとか、自分が可愛がった奴やね。僕が一番悲しかったのは、オラウータンの赤ちゃん。3, 4歳になったやつがいて。

その子はね、いわゆる癲癩持ちやったんだよね。最初のうちは癲癩って思わなかったんやけど、癲癩みたいなひきつけ起こすなあって思っていて。薬をあげてなかったんだよ。

でも、2回目にひきつけを起こした時には助からなかったんだよ。それがすごい悲しかった。自分が悪いと思ったもん。分かるとしたら薬で抑えられるのに、大丈夫だと思った自分がいけないと思ったね。僕の場合、仕事柄、動物が死んで悲しいと思うのって、それほどないんだけど、その時は、自分が悪いと思ったからだろうね。悲しかったね。

1.4 設計で良かったところ

———そうこうしているうちに到津の森公園がオープンして、たくさんの人が来てくれましたよね。

二週間、入園料を無料にしたよね。初日で六、七万人入ってしまったね。狭い園内がいっぱいいっぱいになったね。一方通行でしか回れなかった。こんなのは嫌やと思ったね(笑)。

今だから言えるけど、うちの園は一日の入園者数は一万人の園ではないなあと思ったんだ。多くて五千人がベストだと思うよ。

そうそう！松崎が作ってくれたので助かっているのは、一つ一つの建物が独立してるじゃん。それが良かったと思ってるの。

途中途中で仕掛けができるんよ。そして、最初から木をいっぱい植えたやん。二十年年経って、すごい森になっちゃったもんね。いろんな仕掛けができたことが、すごく良かったって思ってるんよ。それが、今までにない動物園をつくる元になったと思ってる。

一つのところから一つのものしか見えな。今までのように、“両側に展開する檻、一つ見たら右も左も長屋のように並んでいる”というのが無かったのが、すごく良かったと思ってるよ。



1.5 獣舎の床を土にするとしたら反対された (笑)

松崎が俺に聞いたことがあるの。覚えてるかなあ。「獣舎の床を土にしますか？コンクリートにしますか？」って。ほら、松崎と一緒に霊長研へ行ったや

ん。普通、チンパンジーのパドックの中に木を植栽するとあっという間になくなるのに、行った時にチンパンジーの施設の中に木が残ってたやん。

あれが頭にあって、やはり基本的に動物園の床はコンクリートというのは良くないんだと、本能的に思ったの。だから、全ての動物舎の床を土にすると決めて、うちの飼育員に話したら「嫌だ」と言われた(笑)。

なぜ嫌なんだ？と聞いたら、「掃除ができない」っていうの。「水洗いでできないし、ウンコが取れないし、オシッコはまず取れないし」っていうのよ。

だからさ、オシッコは取らなくていい！ウンコは見つかったものだけ取れ！って言ったの。そしたら、「それだとスゴイ匂いがする」と言われたけれど、大丈夫だからやってみろ！と言って始まったけれど、全く匂いのしない動物園になったもん。

何故か？というと、コンクリートの上でモノが腐敗するより、草の上で腐敗するほうが早く分解される。それと、匂いが発生したとしても、木とか葉っぱはすごい気孔とか穴が一杯あって、そこに吸着するんやね。木そのものが呼吸してるじゃん。だから逆に、木の匂いはするけれど、ウンチやオシッコの匂いはしなくなるの。僕は山へ良くいっていたから、分かるけど、動物の匂いって一切しないのよ。そういった木があるからだと思うよ。

あなたを褒めるわけではないけど(笑、松崎が作ってくれた中で、木をたくさん植えられるように作ってくれたのは一番良かった。



1.6 ズーラシアの小型版は嫌だ

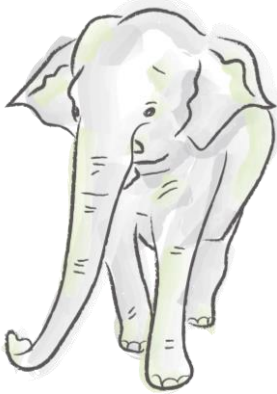
僕はズーラシアを見たことあるから、最初の構想を見た時、ズーラシアの小型版だと思ったの。だから、ズーラシアの小型版で生きていくのは嫌だと思ったんだよ。

じゃ、ズーラシアじゃないものを目指すためには、松崎が作ってくれた植物であるとか草であるとか、そういったものをどんどん増やしていく他ないなと思ったんだ。

今までの動物園経営をしている人達というのは、イニシャルでつくったものを維持するだけだったと思うの。でも、そうじゃなくて、イニシャルでできたものを強化していくことによって、いい動物園になっていくんじゃないかなあという自信めいたものといういか、信念があったね。

——本能でしょ？(笑)

あ——、本能やね(笑。本能バッチリ。私の場合それしかないっちゃ、それしかないよ。



だって、一番最初に言われたのは、到津遊園の時に40万人ぐらい来園者数があって、動物が半分になって、遊具もなくなって、それでも同じ人数を入れろって言われたわけやね。

それは無理やと思ったもんね。だから、新たな“目的や目標“みたいなものを付けてやらないと、今のものを維持するだけじゃ人は来ないと思ったんだ。

自分たちが持っている体質というかクオリティ、というほどのクオリティもないけど(笑、“小さな丘と小さな少しの動物”というものが、いい

方向へ回るんじゃないかと思ったの。というのは、動物の施設もそのものが広くなったし、緑も多くなって、動物が駆けるところもできた。いわゆるアパートみたいな一間限りのウサギ小屋じゃない彼らが住むところがあったというのは、とても良かったと思うの。

人は探さないと見えないけれど、探して見るということは動物にとっては、いいことだと思ったね。隠れたいと思った時に、隠れられるでしょ。

1.7 動物の哲学

——園長の本能と同じ方向へ、今、世界もそんな流れになってますもんね。

そう！そう！！ここを強調したい(笑)

あとで思ったけれどね、僕は10年前に先んじていたと思うね。今まで海外の本なんて興味が無かったけれど、最近、なんでだか英語の本を読むようになったんだよ。最近のアメリカやヨーロッパの本を読んでいて見かけたフレーズがあるんだ。「ノンズー」、動物園でない動物園。「ノンイベント、ノンズー」というもの。こういった方向性が、新しい動物園のあり方だと言われるようになってきてるんだ。

ヨーロッパでは、「動物園の中で飼われる動物だけが、見る動物じゃありませんよ」と言われるようになってきた。つまり、“森を確保することによって、緑だとか花とかを確保することによって、いろんな昆虫が自然と集まってきますよね。いろんな鳥がきますよね。いろんな小動物がきますよね。こういう方向がこれからの動物園として重要なんだと書いているの、今。



——なるほど、僕もそう思います。

だからね、「あの動物が欲しい、この動物が欲しい」とやってるじゃん？今の今でもやってるじゃん。例えば、ゾウがいなくなったらゾウが欲しい。キリンがいなくなったらキリンが欲しい。ホッキョクグマがいなくなったら、ホッキョクグマが欲しいと言っているけれど、そうじゃない。

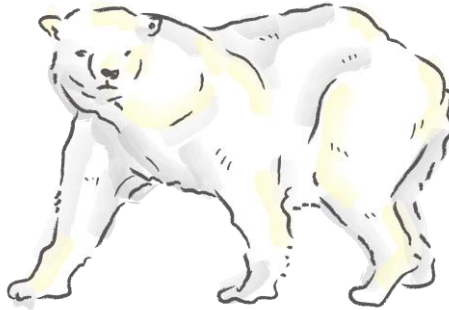
ここの動物園には、一体どんな動物が来るのか？ここの動物園は、一体何を目指しているのか？いわゆるね、“動物園の哲学“、これが重要なんですよ。

動物園をどういう風に利用したいか？ということじゃなくて、必要か否か。つまり、私がこの世の中に必要か否かと一緒なんだよ(笑)。

あんまり必要とされていない。僕の場合はね。うるさいだけだから(笑)。

——いや、3人ぐらい必要だと思ってますよ。僕とか。。

そうかなあ(笑)。とにかくね、最近の世界の本には、動物園がなければ動物園の問題はないって書いてるんですよ。本当にそう思んです。



2. 動物園で育ったチンパンジーは交尾ができない

2.1 動物園がなければ、動物園の問題はない

ズーアニマルウェルフェアというのは、ズーアニマルがいるから、ウェルフェアが必要なんだという考え方だよ。だから、ズーアニマルがいなければ、ウェルフェアを考える必要がないわけだ。

動物園が必要だとしたら、それは何なのか？を考えないといけないの。自分の存在価値に対する問いかけが無いよね、日本の動物園には。それがダメだと思うんだ。それが一番弱いところなんだよ。

例えば、例に出して申し訳ないけれど、水族館の例でいうと、イルカの調教のことを「日頃、狭いプールで飼っていて、この調教はストレスの解消になってます」というのよ。そもそもね、小さいプールで飼っていることがストレスだって言ってるのよ。ストレスを作り出しているのは人間なのよ。ストレスが無かったら、彼らはショーをする必要がないんだよ。大海を泳いでいるところを魅せればいいだけだから。ストレスを与えているから、ショーをしなければいけないというのは、本末転倒だと思うんだ。



——水族館の人可哀そうじゃないですか

そう、可哀そうなんだよ……。ヨーロッパなんて、イルカはもう飼わないって決めているの。大海を用意できないからなんだよ。

例えば、 Bronx (動物園) では、うちの動物園の3倍もあるのに、もうゾウは飼わないと決めたんやろ。彼らはゾウを飼うのなら10ヘクタールが必要だと言ってるんだよ。10ヘクタールというのは東京ドーム何個分？ 僕よくわからないんだけど(笑)



——僕も良く分かりません(笑)

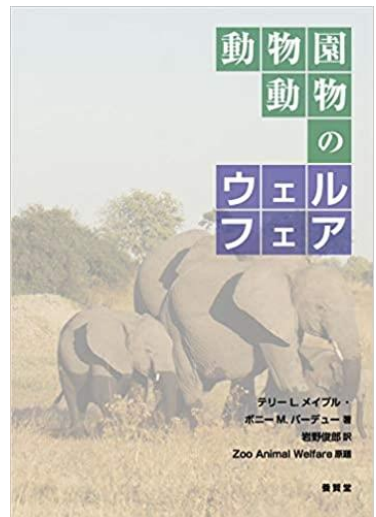
10ヘクタールってうちの園と同じなんだよ。うちの園全部使って、ゾウしか飼えない。それでも完璧ではないんだよ。

2.2 チンパンジーもゾウも群れで生きている

今、アメリカにあるゾウのサンクチュアリは千ヘクタールかな。その中に川もあるのよ。もうね、考えられないね。

ゾウに関しては、僕が訳した「ズーアニマルウェルフェア」という本の前に、スミソニアン国立動物園でゾウの会議がアメリカで開かれたの、2007年だったかな。それが本になっているの。

そこでは、ゾウは少なくとも家族で飼うべきだと書いてある。なぜかって言うと、今ね、チンパンジーを1頭で飼っているところないよね。



——うん、ないですね。

僕らの時は、1頭2頭が当たり前やった。小さい子どもを連れてきて、慣らして飼っていくカタチだった。だから、彼らは一回も交尾したことがない。あれはね、学習能力なので、学習しないと交尾ができないのよ、チンパンジーは。ゾウも同じなの。

今、アメリカで言われているのは、社会性の非常に高い動物たち、大型の高等類人猿ね。大型の類人猿である、チンパンジー、ゴリラ、それからイルカとゾウ。それらは、社会性を持っているので、そういった飼い方が必要だと言っているの。

だから、僕らみたいにオス、メスの2頭というのは一番良くない飼い方だと言われているの、今でこそね。だから将来そういったことが無いようにしないとイケないんだけど、その中で言われているものに、ゾウがあるの。

本来は広大な面積が必要なもので、寒いところではゾウを飼ってはいけないというのが、彼らの常識なの。寒いところだと、どうしても小さい部屋に押し込めないとイケないから。

そういう情報を知ってか知らずか、無視しているのは日本の動物園の一番悪いところだと思うの。

社会性があるって、非常に知能が高いと言われている動物にとっては、そういった環境を用意してあげないとイケないとは思う。

僕らはチンパンジーを群れで飼うことを始めたけれど、それと同じことがゾウでも言われると思っている。ゾウのほうが身体が大きいから、チンパンジーの広さではとてもとても足りない。

そういったように時代は流れてきていると思うよ、ほんとに。それを感じるかどうかの差だと思う。

2.3 シファカの横っ飛びと動物園の教育

私の兄はマダガスカルMadagascarの動物の研究家でしょ、だから、あそこからシファカを持って来たかったんだ。言ってたやろ？

——はい。言っていました。

シファカを持って来た時に、僕はシファカが横っ飛びするのを見てもらいたいと、その時は本当に思っていたの。でも、横っ飛びする理由というのが、実は森が分断されて、耕作地耕作地みたいなところを通らなければいけないから、しょうがなく横っ飛びしていることが分かったんだ。

実はこのサルは地面を歩きたくない。なぜ、こんなことを思いついたかというと、僕、この前ボツワナBotswanaに行ったじゃん。そこで夜中帰る時に、レンジャーが木にとまっているショウガラゴShoogarooを見つけたの、すごく遠くに。彼らはよく見つけるよね。

近くに寄って車のライトで照らしたら、まぶしくて木から落ちちゃったの。そして、ショウガラゴはサルなのに歩けないの。シファカのようにピョンピョン飛ぶのよ。そして、木にしがみついて、ただただ一つて上に上がっていくの。彼らは地面を歩けないんだ。

その時に思ったの。シファカは森が分断されて、歩けなくて横っ飛びしなければならなくなった。それを見せたいと作ってもいいけど、その森の間の土地に、子どもたちと一緒に木を植える。そうして、何年後かに木が育ったら、シファカは地面を歩かなくて済むというのはどうかと。これって教育的やん。それが動物園の教育だと思ってるんですよ。

これは実は、マダガスカルではできないことなんですよ。だから、私たちはマダガスカルへ行って木を植えましょう！って言えるじゃん。こういうことが動物園の持つ教育の一つのツールだと思うんだ。そういうことが必要だと思うんだ。

2.4 「展示」と「飼育員」

でね、僕が今、気になっていることがある。「展示」という言葉なんだ。東大の木下さんが「なぜ、展示するというのか？」と言ってるの。彼、元美大生でしょ、だから気づいたんだろうね。動物を展示するというのは、どんなものでしょ？って。命のないもの、美術品などは「展示」でいいけど、命のあるものを展示とするというのはいかかなものですか？って。



——なるほどー！

だから、展示という言葉を、どこかで変えないといけないと思ってる。あと、最近になって飼育員のことを思うんだけど、「飼育員」という名称がいいのかどうか？

——僕もそれは思います。

だからね。こういった「動物園」という名前とか、「展示」という言い方とか、「飼育員」という名称っていうのを、いわゆる固定概念(ステレオタイプ)みたいなものをどうにか変えていきたいの。せっかく優秀な人たちがいるんだから、やっぱりそれを表に出してあげて、社会的地位を上げてあげたいの。

実は昔から動物に関わる人たちは、社会的に最下層の人達だと言われていたの。今でこそ、飼育員というと「いいね！」と言われるけど、俺が入った時は「糞さらいや」と言われていたの。そんなところに入った覚えはないけど！って(笑)。

それこそ研究者であるとか、学芸員と言われるところまできているんだから、昔どおりの「飼育員」ではダメだろうと思ってるの。動物園という名称も変えていって、新しい動物園像を作るのが必要なんじゃないかなあと思っているの。

3. 「倫理」という考え方

3.1 今どきの IoT を利用して

ワオキツネザルだって、小さな集団が出会った時のしぐさがすごく面白いの。自分たちがここにいるぞ！って自分の尾を振ったり、匂いを出したり、ケンカみたいなものなんだけど。

それは、群れが二つ以上あるから見れるの。だったら、群れが2つ作れる施設を作ればいいじゃないか？と思うんだ。そうすると、おのずと飼育面積が広がる。そんな、いい環境が必要なんだよ。

そういった意味では、チンパンジーが二群あったらどうなんだ？と考える。自由に行き来すれば、もちろんすぐにケンカになる。それがね、今だったら顔認識して、この動物が通る時はこのトンネルの扉を開ける、この動物が通るときは扉を閉めるとかできるよね？例えば、メスだけは移動できるとかもね。

———そうですね！オスがケンカしますもんね。

これからは、そういうこと可能になってくるんじゃないかなあと思ってる。チンパンジーを展示するならね。

ただね、アメリカではチンパンジーは、人間と98%ぐらいDNAが同じだと言われている。だから、モノのように人に見せるのはどうか・・・というのが世界の流れだから、見られなくなる場合もあるのよ。だけど、見てもらう限りはそういった環境が必要だと思うよ。



3.2 自然の入り口としての動物園



この前ね、釧路に行ったの。雪原ではタンチョウが飛んでるのよ。そこでね、マイナス 30 度になるところにキリンを飼ってるの。市民は動物が見たいのは分かる。でも、温かい地域の動物にとってはどうなだろう。

釧路で一番貴重なのは何なの？って考えたら、あの道東の豊かな自然やないかと。あそこには、シマフクロウも来れば、タンチョウ来る。オオワシも来る！なぜ、自然の入り口としての動物園を作らないのか？観光客はそこから道東を見に行けばいいじゃないか！と思ったんだ。まさに“ビジターセンター”の役割

ができるじゃないか！と思ったんだよ。

キリンを持っているからと言って、地域の動物園としての価値はないよ。そのキリンは、モノとして見られているだけじゃないかと思うんだ。そういうことを言ってあげるのも、動物園の使命だと思うんだ。

“自然の入り口としての動物園”、それが地域の「新しい動物園」の存在価値になっていくんだよ。

だってね、スイスでは東京ドームぐらいのところでゾウを飼ってるんよ。そりゃ、ゾウのためにはいいよ。でも、そのエネルギーはどこから作りだされるんか？と思うんよ。東京ドームと同じものを冷房し、暖房するってエコなんかと。動物園はそういう点でもエコじゃないといかんよ。

ヨーロッパの動物園は大きいからいいと言っているヨーロッパ人的な考え方は、僕はちょっと許せん！日本人としては、東南アジアを責めるだけがヨーロッパ人じゃないぞと思ったりするんだ。

——ヨーロッパは、人のこと何でも言いますからね

いや、そういう点では、私なんかも自分のことを言ったことないよ。常に他人のことを非難する。そうするのが、私やけん(笑)

——でも、そうなっていくんでしょうね。

そうね。

3.3 いい動物園とは



やっぱり、いい動物園てね、しっかりした土台の上に立っていると思うよ。

地域であったりとか、園のポリシーであったりね。それがないと、やっぱり勝てないものだと思うの。なんぼいいことを言ってもね。実践が付いてこないとね。って、ま、俺は口だけで生きているけどね(笑)。

——マダガスカルに、観光で動物を見に行く人が多くて、野生動物の自然が荒れているから、小菅さんと岩野さんと3人で1年間マダガスカルへ行って、観光客に動物を見せるための施設を作ろうって言っていましたよね！覚えてます？

言ってたね。僕ね、マダガスカルは、マダガスカル自身が助けないといけないと思っている。よその国にお願いしちゃダメだと思っているの。マダガスカルには、「野生動物の繁殖センター」を作ることが必要だと思っているんだ。あそこにしかできないからね。それを日本が応援すべきだと思うの。それがODAだと思うんだ。

———あの話、東北の地震でなくなりましたよね。JICA の協力で行こうとしていましたよね。JICA も地域の自然環境を守るために。だとすると、さっきいわれたタンチョウの話と一緒にすよね。

そう、僕は今、言っているの。北方三島はロシアと日本とが共同で自然観察ができる場にする。そこに動物園を作ってもいい。トッカーがおろうが、シャチがおろうが、ラッコがおろうがいい。そんな生き物を共同研究する場が欲しい。僕は経済特区ではないと思う。

———そうですよね。

沖縄だったら、暖かいところの動物を基地でも何でもつかって、飼えばいいと思うんだ。そうすれば、東南アジアへの入り口としてアピールできると思うんだ。

3.4 誰しも、都合の悪いことは隠す

沖縄で、シンポジウムをやった時に、沖縄市の市長から僕と小菅が呼ばれて行ったことがあったの。「子どもの国をなんとかテコ入れしたい」って言うんだけど、そんなの放っておけばいいと。普天間基地が帰ってきたら、あそこに 20 頭のゾウを飼えばいいといったの。

あそこ、どれだけの広さがあると思う？

———分からないです。

あそこね、400 ヘクタールある。ここでもし増えたら、ゾウを現地へ戻すことすら可能なんです。植生も似せて造れるから。



——そうですね。タイとかカンボジアに戻せますよね。

そう、東南アジアに戻せる。そういったことができると思っているけど、東南アジアの環境が悪くてね。「Elephants and Ethics」という本が出てるの。「ゾウと倫理」という本なのよ。副題が「Toward a Morality of Coexistence」とあって、「道徳的共存に向かって」というものなの。

もうね、普通の動物に言われる言葉じゃないよね。道徳的共存に向かって、ゾウと倫理という本なんだけど、そこで言われているのは、東南アジアの保護施設はすごく悪いと書いてある。野生から捕獲してきても、10分の1しか生き残らないと言われているの。

野生のゾウを捕まえるのがどれだけ大変かということなんよ。そこから10頭を出すことは可能なんだけど、その10頭のために90頭の象が犠牲になると言っているの。だから、その施設から持っていかないでくれって、その本の中に書いてあるの。

僕ら、情報を知らなさすぎるね。やっぱり。

——そうですね。都合の悪いことは隠しますもんね。

そう、都合の悪いことを隠すし、なるべく、知らんぷりしようとするね。

だから、僕なんかでも、できる限り帽子をかぶろうとするもんね(笑。できる限り脱ぎたくないもん(笑。都合の悪いものは隠そうとするよね。世の中はね。

だから逆にね、これからの動物園はすごく面白いと思うの。

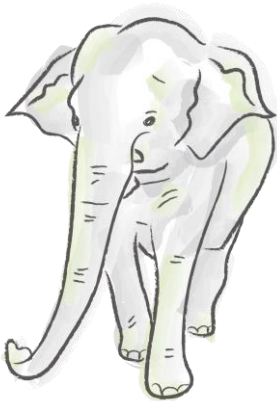
3.5 これからの動物園のあり方

——さっき、園長が生態系の話が言われていたじゃないですか。海外の動物が日本の動物園にくるんだけど、そこで日本の生態系と出会うみたいなの。それって、動物園にいる海外の動物の周りに、日本の鳥だとか植物が

周りにやってきて、動物園自体が生物多様性を育む場所になっていくのかなあって。

——トキの野生復帰の過程があったじゃないですか。保護復帰施設では、トキにとっていいものしか飼ってなかったですよ。だから、野生復帰してからすぐにやられていましたよね。自然界に入った途端にがつりやられてしまった。貴重動物は食う食われるまで行くと大変になると思んですが、もう少し自然に近い生態系を再現することが大切かなあと思っているのです。

——動物園ってこれまでは、一頭、一頭を観せることだったと思うんですけど、ゾウにしても植物がなければいけないし、植物を育てようと思ったら土壌菌がなきゃいけないし、本当はゾウがその自然環境で育つためにはいろんな仲間がいるじゃないですか？本当はそこを、動物園の中で展示していくということが大切なんじゃないかなあと。できる限りね。動物一体一を観せるというところから、変わっていくんじゃないかなと。



——園長が言われていた、広大な面積での飼育環境が必要だと言われていたじゃないですか？広大な面積でかつ自然環境の多様性があると思うんです。そこに、ひょっとしたら、食う食われるまではいかないけれど、共存するようなものがいたほうがいいのかかなあと思っていますが、どうなのでしょう？

動物園のあり方はいろんなものがあると思うんです。今、言っているように、動物が単独で生きていることはないのも一つある。サルのように群れになっているものは、群れで飼わないといけないし、単独で生きていると言いながらも、どこかで関わり合いを持っている。

たとえば、蛇も1匹では増えないね。これからそういったものも必要になってくるだろうね。

だからといって、日本に東南アジアの現地の環境を用意するのは無理。だけど、似たものは再現できる。でも、似たものを再現するときに、なぜ、私たちは似たものを再現しなければいけないのか？という考え方もある。



4. エシカルな動物園へ

4.1 動物園の機能と起源

とにかく、もうね、「動物園」から離れた考え方が必要だと思うんだ。動物園、動物園してたらダメなんだよ。ノンズーと最初に言ったけど、ノンズーという考え方が大切だと思うんだ。

——動物園って4つの機能があるって。研究、教育、クリエイション、繁殖？今、種の保存とも言っていますが、野生動物を預かっていると言いながら、返せない状態にしていくじゃないですか。本当に目指しているものを、考え直した方がいいの shouldn't でしょうね。

うん。そうだね。動物園のベースは一体なにか？ということだよ。アメリカの本を読んで思ったのは、アメリカはサーカスから来てるのよね。動物園＝サーカスなんだよ。サーカスでゾウを10頭も20頭も飼ってたんだから。

サーカスと決別して動物園の道を探ろうとしているのがAZA(エーゼットエー:アメリカ動物園水族館協会)なのよ。新しい動物園像を必要としているの。だけん、カルフォルニアのほうだったら自然食、健康というのを非常に大きく取り上げる必要があるって言っているの。僕もその通りだと思ってるんだ。

最近ではエシカルなグッズって言うでしょ？倫理的なモノっていったい何か？というと、人の生活にやさしい。地球にやさしい、ECOとはちょっと違うんだけど、再生可能であるとか、そういったことが動物園の中で実際されていないと、みんながうたえなくなっちゃう。

例えば、それが保全であろうが、教育であろうが。教育とか言っているのに、使い捨てのものを使ったりとか、プラスチックをいっぱい出したりとか、全然エシカルじゃないよね。

そう言ったことを、動物園の内側から変えていかないといけない。自分たちの立ち位置を決めていく？いわゆるポリシーみたいな。

今は、戦術(オペレーション)にこだわりすぎている。これがあれば動物が来るんじゃないか？これがあれば何かできるんじゃないか？と。オペレーションが一番最後にくるものだよ。ポリシーがあって、ストラテジーがあって、オペレーションがある。

そういった考え方(オペレーションありき)は、システムチックではない。それはね、自分たちの立ち位置みたいなを分かってないというより、市民が分かりづらい。何のために動物園があるのか？と。それは良くないと思っている。国民が分からない動物園なんていらんと思っている。



——日本には、江戸時代に孔雀茶屋があって、そこにラクダ連れてきたり、ゾウ連れてきたりして、珍しい動物だ—と言って。そして昭和になって、子どもたちにライオンとかキリンとか見せてあてて。

そう、夢を与えてね。そうそう。

——でも今、簡単に見られるようになってしまいましたもんね。小学生でインターネット城に映像とかいっぱいあって、僕らよりよっぽど知っている子もいますもんね。そうなると、今までよりランクの上がった動物園像ってあるんでしょうね。

4.2 動物園とサイエンス

今は“人をギョッさせるもの”を提供するという意識が強いのだよ。それがレジャーにくつついちゃうの。教育とか保全とか、そういったものとは違うの。新しい動物園に必要なものって何かというと、昔から言われてるんだけど、サイエンスなの。サイエンスとレジャーはイコールにならないと言われている。

サイエンスに基づいた動物園のあり方が問われているんだ。動物園が少なくなれば、動物のためにはいいという人たちがすごく多いの。そういったことに目覚めた人が動物園をすればいいからね。

アメリカにアミューズメントっぽい動物園が無いか？と言ったら、そんなことはない。ロードサイドアトラクションというアミューズメント専門の動物園なんていっぱいある。それらと決別したいというのがAZAなの。

アメリカの動物園は、サイエンスを基盤にしてやるんだ！と決めているのね。AZAだけじゃないけどね。EAZA(ヨーロッパ動物園水族館協会)といって、ヨーロッパの動物園もそうね。「サイエンスだ」と言い切っているの。

4.3 動物園の経営

——最近、株式でESG投資というのが出てきたんですよ。環境に配慮した会社や組織に対して、サステナブルだということで、そういうところに投資が集まるようになってきているんですよ。

——経済自体が、そういうものに対して反応しているんです。今までのような単発に花火を上げるような動物園ではなく、動物自体を地球の財産として大切に残していこう！という動物園が求められているんじゃないかって。それが人間に対して、どう役に立つかわからないけれど、多様な動物のDNAを残していこう！というものに経済自体がついてくるような気がしていますよ。

うちの場合はね、経済用語で言えば、スモールサイジング、ライトサイジングっていう言い方をすると思うんだ。前はスマートシュリンクという言い方をしていたね。スマートにグロスすることもあれば、スマートにシュリンクすることもある。要は、身の丈を知るといって、自分たちの経済力だとか面積だとか、クオリティ(質)、クオンティティ(量)を含めて、スマートにシュリンクするっていうのが非常に重要だと思っているんだ。

最近、本を見たら、「ライトサイジング」という言い方をしてるんだけど、いわゆる適正規模化、それは僕らが目指すところだと思うんだ。なぜかと言ったら、潤沢な資金というのを望むことができないから。ライトサイジングしていくことが大切だと思っているの。



昔は、どんどん大きくなっていけばいいねーと思っていたの。動物たくさんになるといいねーと思っていたけれど、今はそう思っていない。今の動物園の大きさが十分だと自分では思っているの。今のやっていることを展開するにはね。その代わりに、動物の数を減らしてもいいと思うよ。

その代わりに！その代わりにだよ！小さくしたけど、より大きな印象を与えるような施設にならんといけんと思うの。チンパンジーが二群れあるとか、オラウータンの森があるとか。

小菅のところでオラウータンが綱渡りするやん。これっていかにも人工的やん？と思ったんよ。餌でつってるやん？と。僕はね、行きたいから行く施設を作るべきやと思うんよ。

例えば日陰があるとか、向こう側に誰かがいるとか、食べ物でもいいよ。だから、行くんだという環境を作ってやることのほうが大切だと思うんよ。あそこに木をたくさん植えることは無理やん。逆にいうと、ゾウやチンパンジー、オラウータンやキリンを飼うことはあそこでは無理。

これこそ、ライトサイジング化なんよ。ライトサイジングとはそういうものだと思う。地域にあったものを、いかに自分の能力としてクオリティとしてクオンティティを越えるものが得ることができるんじゃないかなあと思う。

4.4 動物園の6次産業化

———今までの動物園は、動物を飼育して、それを展示したのを見る入場料でやっているじゃないですか。

岩野さんが言っていたライトサイジングした動物園って、見るだけじゃ面白くなくなっていると思うんですよ。



———岩野さんが言われていたことで、ヒントになるなあと思っていたのが、いろんなノベルズだとか動物園の製品が環境に配慮していたり、リサイクル品だったり、そんなものに変えていかなければいけないという話がありましたけれど、動物が動物本来の姿が見えるようになってくれば、企業イメージってすごくいいじゃないですか！

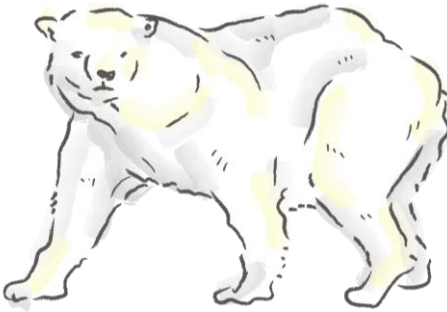
———そういうイメージを活かして、違う事業を載せるというのもあるんじゃないか？と思うんですよ。例えば、ノベルズをいっぱい販売して、「あの到津の森の動物園で作ったノートやファイル、先日も竹のファイル作りましたよね？それを買いたいという人が増える。そちらの方が動物園を運営するためのお金として入ってきて、入場料というのは、少し減るかもしれないけれど、到津の森公園がやっている地球への貢献というものに対する共感を持ってもらって、他の事業が展開できるんじゃないかなあって。そういうタイプの動物園が出てくるんじゃないかなあって。

そう！アメリカなんかの場合は、健康産業と結びつきたいってのが非常に大きいよね。だから動物園というのは基本的にウェルネスセンターだ！って言うてる人もいる。

ウェルネスっていうのは、健康の「今」の状態じゃなくて、徐々に良くなるっていう、いわゆる動的な状態だって言われてるのね。

ウェルネスっていう身体を健康な状態に保っていく場としては、動物園って非常に適切なんだっていうことを言っているんだ。

——それはわかる気がします。。



そのためには何かあったらいいのよ。いわゆる“地産地消”であつたりとか、あるいはオーガニックなものであつたりとか、あるいは環境に優しいものであつたりとかするのは、自然の道理だつて言うてる。僕もその通りだと思う。

——うん。それを動物園が、開発・製造し販売してもいいですもんね。動物園の6次産業化みたいに！

そうそう、あのね、動物園っていうのもやっぱり、動物を飼っている限りは、お金がかかるし、当然そのスタッフも必要なんです。そういう意味で、健全経営をするっていうことは非常に重要な柱なの。健全経営をするときに、入園料だけに頼ってるっていうやり方は正しくないと思うんだ。

一つは寄付であつたりとか、今のグッズであつたりとか、協賛してもらふ意識も必要。

我々はこんなことやってるので、これに協賛してもらえませんか、というのが必要なのかな。何もしないところには、やはり協賛したくないってやっぱり思うと思うね。

——うん、うん。

4.5 動物園と SDGs



SDGsなんかでも思うんだけど、動物園にとってもSDGsはとても重要な考え方だと思うんです。人間の社会もそうだけれど、自然界だって持続的に発展していく、それをその適正な形でもって残していきたいでしょうねっていう意識は必要なんだよね。

さっき言ったけど、野生に戻すための努力っていうのは動物が増えれば、戻せるんじゃないよね？

今、言ってるような、例えば土壌であるとか、いわゆる毒性のあるものをどうやって嫌っていかとか、あるいは毒性のものを利用するとかっていうのがあるでしょ。これってこれ、牛田さん(中部大学教授)のジャンルである腸内細菌の話だけれど、そういう腸内細菌の話ですら、僕らはちゃんと動物園の中できちんと伝えていけないといけない。そんな環境を作ることが、健康な動物の子どもを作っていくためにも必要なんですよって伝える。自然界の生物多様性みたいなものを作ってくって初めて、自然に返せますよというプロセスが必要なんだと思う。

——うん。僕もそう思います。

牛田さんからそんな話を聞いて、そう思ったんだ。そこで聞いたんだよ。「いくら増やしても野生界で、食べるものが違ったら生きていけないってことでしょ」って、そしたら「その通りですよ」って言うんだよ。

食べて毒性があって、そのお母さんから伝えられた解毒するものを獲得しなければ、自然界でいくら放しても生きていけないじゃないですかと言ったら、「そうなんですよ」と言ってましたね。



それでうまくいかなかったのが、実はライチョウだったの。

野生界のライチョウは、毒性のあるものを食べても、腸内細菌でもって解毒するという特性をお母さんから引き継いでいるんだけど、動物園で育ったライチョウにはそれが無い。だから、いくら増やして自然界へ戻しても絶対に増えないですよ。生きていけないから。

——動物園では結構いい食べ物をもらえるじゃないですか。でも、野生界だと硬いものとか、腸内細菌がもっと頑張らなきゃいけないものとかがありますもんね。そして、腸内細菌の種類も、動物園と野生界では違いますがもんね。

そうだと思うよ。彼はそんな仕事してるじゃん。彼から教わったことも結構あるよ。

——はい、僕も、めっちゃ教わりました。

やっぱりね、いろんな人のコラボレーションが必要なんよ。動物園人ばかりじゃ駄目。ほんとにそう思う。

そういう自然界のことを知らないと、園の入園者が少なくなるとどうしても、「新しい動物を入れたほうが…」という考え方がでてくるんです。でも、それって一時のことなんです。サステイナブルではない。

過去に、やったことがあるんですよ。1998年にコアアラを2頭持ってきて、うちの動物園で展示したことがあるんです。展示した当初は1.5倍のお客さんが入った。動物園の前に人が並んだのを始めて見たよ。

でも、1年経ったら誰もいなかった。

元に戻ったもん。

でも、動物は飼いきれないといけないんよ。僕はたまたま1年のレンタルで戻したけど、普通は買いきれないといけないんです。その頃はそのような仕組みがあってね、貸す方も、1年間に飼育費が一千万円、二千万円という動物だったので、貸すことによって、プラスになる。

だけど、そんなことっていうのは今ないよね。

また、あっちゃいけないかもしれない。

——でも中国とかパンダとか貸してくれるじゃないですか。金絲猴とか。

それはもう、そのほら、どこもお金欲しいよね。俺だってパンダを持ってたら、君に貸すよ(笑。パンダの2匹や3匹(笑。その代わりにくらください！って言う(笑。



4.6 ゾウもキリンもない動物園

やっぱり、動物園に来る人にとっては、ゾウがおった方がいいでしょう、キリンだった方がいいでしょう。

——そうでしょうね。

今はね、ゾウのいない動物園を動物園って言わんだろうっていう人たちの方が多いんですよ。だけどね、実は僕のところのロビーに、私が書いた下記の文章を掲げてるんです。

「動物園にゾウがいなくても、キリンがいなくてもいい動物園になりたい」

と書いてあるの。

僕ね、こういったことを市民に伝えてることは、非常に重要だと思う。キリンにしたって、ゾウにしたって群れで生活してんだからさ、その群れで飼えないんだったら、もう買わないという約束を、動物にしてやらないかんよ。僕は、そう思ってるんです。

——普通の動物園だけをやってる人たちは、こういう思想じゃないでもんね。

そうですね。キリンがいなかったら、どっから入れようか。ゾウがいなかったら、どっから入れようかという考え方の人がばっかりだもん。だって、それじゃないとお客さんが来ないから。

っていうのはさ、動物園のゾウとかキリンっていうのは、美術館でいうドガとかゴッホとの絵と一緒にですよ。

そうじゃなくて、地元の美術家を、脚光を浴びさせるようなことをするのが、地元の美術館の役目なんじゃないですか！と、私は思うんです。ドガとかゴッホ、ゴーギャンの作品って、どこの美術館でも見れるやん。それをさ、わざわざうちの美術館で持たないといかんかな？って思うんです。

うちはさ、この人もこの人に焦点を当てて、この人の作品では負けませんっていうのがあってもいいんじゃない？かな？！

——いいですよね。

それはコアな人しか、地元の人にしかさ、役に立たないにしてもさ。地元の人のためにあるんだから。見たければそう国立美術館へ見に行けばいい、という考え方もあるんじゃないかなと。

4.7 花鳥風月な動物園があったら

あの昔ね、京都動物園長だった人が動物園のお話を書いた本があるんだけど、その一番最後で、京都にある動物園なんだから、京都らしい動物園があってもいいんじゃないか？って言った。

いわゆる「花鳥風月」。そういった動物園なら、見てみたいと思うん。

「花鳥風月の動物園」って、ちょっと言ってみよかーってならない？

——なりますね。

ゾウもキリンもおらんでいいよ。そこには。



4.8 地域の未来をつくる動物園

この土地らしい動物園という意味ではね、僕ね、言ったんですよ。ここには土地もあるし、建物もあるから、あそこを保育園にしたらどうかって。

——いいですね！



それと、その上に老人施設を作ってやって、その老人に子どもみさせろって言ったんですよ。そうしたら、なんて言われたと思う？

「管轄が違う」

だったんですよ。

幼稚園は教育委員会、保育園は市民局かな。老人の方は社会福祉。それはね、合いま

せん。横断的な部署を作ればいいじゃんね。最近はね、大学でも学際的な部局が必要なんだと言われてますよね。

横断的なことをやることがなければ、物事はね、革命できない！と思う。

動物園は公園局関係だけど、その中で教育もやれば、保育もやれば、老人の介護もやるというのができる。老人が子どもたちから介護してもらうこともできる。こういったマルチなアイデアが必要ないんじゃないかと、僕は言うのよ。

そうしたら、どんなことが起きるかって想像すると、北九州市は非常にユニークな子育てをしてるっていうふうと言われるようになる。そうすれば若い子が移住してくることになる！と言ってるの。じいさんばあさんも、地域の子も達のために役立つんだったら、そりゃー嬉しいでしょう。

これね、僕が言うど「岩野が又何か言ってる」っていう風にしか聞いてもらえないので、子育てや子どもの教育に関わっている人から言って欲しいんです。

でもね僕ね、100億あったらそのよう保育園もあるけど、あの裏の公園を全部もらって、ゾウを買う。あの裏庭の池でゾウを水浴びさせる。



——いいですよね！

わずか 10 ヘクタールぐらいしかないけど、日本で初めてやけん。そしてね、それを、外から見ると人は無料っていう太っ腹を見せてやりたいね。オープンな北九州人としては(笑)。

そしたらね、「えっ！北九州って、なんて住みやすいところなんだ！」って思ってもらえます。これって、シティプロモーションになると思うんですよ。

5. 岩野俊郎という人間

さて、園長のお話はいかがでしたか？最後の章では、松崎から「岩野俊郎」という人間について、ご紹介させていただきます。

岩野俊郎園長のことを一言で表すと、「こどもの心を持った大人のチンパンジー」ですね。心が赴くままに行動して、周りの人たちを巻き込んでいく。そのパワーには、いつも驚かされます。

岩野さんと会って、まだ間もない頃のこと。彼は足にパワーアングルを着けて、園内を散歩してたんです。この人はいつか、アフリカのジャングルに帰っていくんだろうなと思ってました(笑)。

でもまだ、社会が求めているから、日本におられるんだと思います。

岩野さんの「こどもの心」は、興味が向くほうに行くだけじゃなくて、すごいんです。動物園に関わることになる、その出来事や空間を心の目で見て、「本当はどうなんだろう」って感じ、本能的に「こうなのかな」って、自分なりの答えを見つけるんです。

しかも見つけるだけじゃなく、外国の書物を調べてみたり、色々な人の話を聞いたり、科学的にその内容を頭で精査していく。それによって、より良い答えに導いていくんです。

そんな岩野さんから出た言葉。「ノンズー」と「ライトサイジング」、「サイエンス」。

この先に、未来の動物園の姿があるのかもしれませんが。

動物園が今のまま続くのであれば、動物の近縁繁殖が増え、血が濃くなって、22世紀には、日本の動物園に動物がいなくなるんじゃないかと言われています。

本来は大自然の中で、懸命に生きている野生動物。

そんな動物が心身ともに健康に過ごし、地球上に共に生きる生物として、未来まで健全に子孫を残していく。

みんなが動物の生の命を感じ、そこから社会を変えていく気概や、ヒントを創造できるようなエモーショナルな未来の動物園。

そんなノンズーな動物園。一緒につくり上げ、育んでいきませんか。

最後に岩野さんは、僕が動物園人として、人として、尊敬し、学ばせていただいている人です。

感謝と、いつまでもお元気で。

チンパンジーの森にはまだ帰らないでください(笑)。



松崎 淳

お読みいただきありがとうございます。

感想やご意見など、下記のメールアドレスまでお願いします！

お送りいただけたら、岩野園長と松崎は、飛び跳ねて喜びます。



(QRコードを読み取ると TONZAKO 宛てのメールが開きます)





株式会社 TONZAKO デザインが運営する
～自然はスペクタクル！感動体験 Web メディア



株式会社 TONZAKO デザイン

〒460-0002

愛知県名古屋市中区丸の内 2-10-11

リブラ丸の内 6 306

Tel/Fax:052-253-8518 (代表)